

# 砂防ニュース 第28号

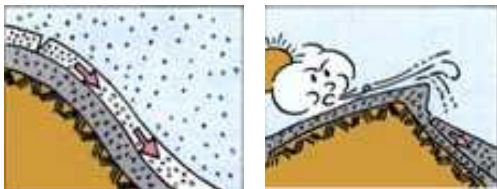
発行：新潟県土木部砂防課

発行日：平成21年2月20日

## 防げ！！融雪災害

冬本番、みなさんいかがお過ごしですか？今年も早いもので雪崩、地すべりの多発シーズン到来です。例年発生する雪崩の7割、地すべりの3割が2～4月に集中して発生しています。

雪崩は、積雪のある斜面に亀裂がある箇所(絵1)や雪庇ができている箇所(絵2)、気温の上昇した日や積雪の上にさらに降雪した場合などで発生しやすい状況になります。



(絵1)

地すべりについては、積もった雪が気温の上昇に伴い溶け地中に染みこむことにより地すべりを誘発します。斜面末端の押しだし、亀裂や湧水など通常時と違う変状が見られます。



(絵2)

このような気象状況が発生したら、積雪・変状のある斜面に近づかない、また近くにお住まいの方は斜面と離れたところで就寝するなど心掛けてください。

近年は暖冬傾向で降雪量も少なく雪崩・地すべりの件数とも減少傾向にあります。しかしながら、両災害ともひとたび発生すれば人命・財産を奪うものであります。斜面の近くに住まわれていなくても外出先で巻き込まれる可能もあります。山間地へお出かけの際も雪崩・土砂災害に気をつけていただければと思います。また、雪崩・土砂災害を発見の際は最寄りの地域整備部(旧土木事務所)へ連絡をお願いします。

## 土砂災害警戒区域の指定状況

県内には、土砂災害発生の危険があるとされる箇所が約1万箇所あります。

平成13年に「土砂災害防止法」が制定されて以来、県では、この危険箇所を順に詳しく調査しながら、「土砂災害警戒区域」、「土砂災害特別警戒区域」の指定を行っています。

今年度は、平成20年4月1日から平成21年2月13日までの間に、警戒区域を289箇所、特別警戒区域を231箇所指定し、通算で、新潟県の警戒区域は968箇所、特別警戒区域は350箇所となりました。

「土砂災害警戒区域」に指定されると、その区域では警戒避難体制の整備が行われます。また、「土砂災害特別警戒区域」に指定



されると、特定の開発に対する許可が必要になったり、建築物に対しては建築確認が必要になったりします。

## 土砂災害警戒区域等の一覧(市町村別)

平成21年2月13日現在

県地域 振興局	市町村名	土砂災害 危険箇所 数	土砂災害警戒区域の指定数							
			急傾斜		土石流		地滑り	小計		
			特別		特別		特別			
村上	村上市	503								
	関川村	84								
	粟島浦村	16								
新発田	胎内市	79								
	新発田市	167								
	聖籠町	0								
	阿賀野市	80								
新潟	阿賀町	293	29	10	58	24	7	94	34	
	五泉市	279	2	2	4	3		6	5	
	新潟市	251	40	39	54	31	1	95	70	
	弥彦村	56								
三条	燕市	35								
	田上町	34								
	加茂市	287								
	三条市	324	56		50		5		111	
長岡	見附市	129								
	長岡市	1,413	51	12	7		7	65	12	
	出雲崎町	87	7	1	6		1	14	1	
	小千谷市	215								
柏崎	川口町	77								
	柏崎市	613	15	5	22	12	4	41	17	
魚沼	刈羽村	52								
	魚沼市	505								
南魚沼	南魚沼市	363	4	3	20	16	4	28	19	
	湯沢町	112	9	9	14	10	2	25	19	
十日町	十日町市	793	73	51	37	22	11	121	73	
	津南町	99	25	6	8	6		33	12	
上越	上越市	1,248	44	25	42	2	34	120	27	
	妙高市	221	7	5	23	4	12	42	9	
糸魚川	糸魚川市	566	2		14		6	22		
	佐渡	943	80	37	47	15	24	151	52	
計		9,924	444	205	406	145	118	0	968	350

土砂災害警戒区域等の指定状況は砂防課ホームページでも確認できます。  
ぜひ、ご利用ください。

URL : <http://www.pref.niigata.lg.jp/sabo/1193933760987.html>



### 土砂災害警戒区域に指定されると...

ハザードマップが作成されるなど、警戒避難体制の整備が図られます。

### 土砂災害特別警戒区域に指定されると...

住宅宅地分譲や災害時要援護者施設のための開発行為は許可が必要になります。  
建築物に対して、土砂災害に耐えられる構造になっているか建築確認がされます。  
著しい損壊が生じるおそれがある場合は、建築物の移転等の勧告が行われます。

## 災害復旧部の閉所について

平成17年4月に長岡地域振興局に新設された「災害復旧部」は、これまで「7.13新潟豪雨災害」と「10.23新潟県中越大震災」の早期復旧に職員一丸となって全力で取り組んできましたが、事業進捗により今年度末をもって看板を下ろすこととなりました。

未曾有の被害を受けた中越大震災の復旧工事では、全国から技術職員の応援もいただき、余震の続くなか査定業務を平成17年1月に終え、平成19年12月の県道開通をもって1,000箇所を超える震災復旧工事全てを完了することができました。

そのうち砂防関係は、多数の土砂災害が発生したことから砂防32箇所、地すべり20箇所、急傾斜10箇所の計62箇所24億円の復旧工事に加え、災害関連緊急事業を油夫地区、濁沢地区、三石川及び船岡山地区など砂防6箇所、地すべり46箇所、急傾斜18箇所の計70箇所185億円で実施し、平成19年度に事業を全て完了して徐々に震災前の生活と穏やかな風景を取り戻しつつあります。

また、新潟豪雨災害の復旧事業は今年度が最終年度ですが、現在、刈谷田川で中之島ショートカット部及び遊水地整備を、猿橋川で稲葉川放水路建設を中心に工事を進めているところで、ようやく完成の姿が見えてきたもののもう少し時間が必要です。

このように復旧事業に一定の目途がついたことから、小千谷庁舎廃止から1年後の今年3月末をもって災害復旧部を廃止し、残事業を地域整備部に引き継ぐ体制に組織改正されます。災害復旧の拠点として4年間過ごした不夜城(プレハブ庁舎)も4月には取り壊されることとなりますが、高い志と熱き思いを持って昼夜分かたず早期復旧に奮闘した記憶は、携わった全員の胸に深く刻まれ続けるものと思います。そして、この経験を今後の危機管理の更なる強化に生かし、県民の安全・安心に寄与するよう努めなければならないと思っています。

最後に、災害発生以来これまで御支援・御協力をいただきました関係機関並びに地域の皆様に、心より感謝し御礼を申し上げます。



油夫川油夫地区  
床固工・流路工



堰堤工  
L=121m, H=14.5m

## 市民活動・現場からのメッセージ NPO法人 中越防災フロンティア

長岡市の「NPO法人中越防災フロンティア」は、中越地震の被災地の復興を支援する活動を行っています。今回は、その中の一つ、路線バスが廃止された山古志・太田両地区に「クローバーバス」というバスを走らせる活動について、事務局長の野沢さんにお話を伺いました。

山古志・太田地区を走っていた路線バスが、平成19年12月に廃止され、それからは、長岡市のコミュニティバスが走っていましたが、将来的なことを考えて、NPO法人である中越防



災フロンティアが運行をした方がいいのではという話になり、平成20年7月1日から「クローバーバス」の運行が始まりました。

運行するにあたって、住民の方から、会員になってもらい、年会費を支払って



もらっています。(正会員5,000円、賛助会員3,000円)また、行政からは、新潟県の復興基金と長岡市からの補助金が出ています。それらを運用して、運賃は、無料となっています。

路線は、4路線あって、長岡市内から山古志に行く場合は村松、小千谷市内からは岩間木という所まで、路線バスが通っているの、そこから、クローバーバスが引き継いで走っています。運行を開始する前に、地元の要望を聞くため、協議会をつくってもらい、路線や運行方法



を決めてもらいました。

バスは、29人乗りが1台と12人乗りが2台、8人乗りが1台の計4台あります。また、運転手は、雇用の創出や道路状況をよく知っていること、乗客と顔見知りであるということか



ら、地元の人に担ってもらっています。

停留所はありませんが、途中の乗り降りが自由なのも特徴の一つです。そのほかに、時間帯によっては、予約をしてもらえれば、都合に合わせて、寄り道して迎えに行ったりもします。

通学など、1日約150名の利用があります。休日は、基幹バスは休みですが、高龍神社や蓬平温泉に行く観光客に利用してもらうため、村松から蓬平まで、特別に走らせています。

地元の経済の起爆剤になってもらいたいとの狙いから、実際の運行は、地元の事業所3社から、企業体を作ってもらい、そこに委託していて、5年後には、事業自体を地元で引き継いでもらう予定です。

山古志・太田地区の世帯の約97%が会員になっているそうで、「クローバーバス」は地元の人たちから、大変な支持を受けているようです。

## 砂防にまつわる昔話

十日町市松之山(旧松之山町)は、有馬、草津と並ぶ日本三大薬湯の一つ、松之山温泉で有名です。

一方、昔から地すべりの多発地帯でもあり、昭和37年から、3年間に渡って、850ヘクタール(東京ドーム180個分)もの土砂が数百メートルも動くという大規模な地すべり(「松之山地すべり」)が起こり、住民は家屋や田畑、飲料水を失いました。

松之山小学校の近くには「壱坂(もくざか)」と呼ばれる坂がありますが、その名前の由来である地すべりにまつわる昔話をご紹介します。



今から、500年前、<sup>うさぎぐち</sup>兎口というところに、<sup>むらおさ</sup>村長のもくべえと、四十をすぎてやっとできた三つの太郎と妻のおまつが住んでいました。

雪解けの頃のあるとき、村を地すべりが襲い、田には亀裂が入って水がたまらなくなり、家は傾いてくるなどして、村人は困りはててしまいました。

毎晩のように、みんなでもくべえのところに集まっては、話し合いをしますが、これといった妙案は出てきません。困ったもくべえは、神様にきくしかないと、巫女を訪ねました。巫女のお告げは「人柱を立てろ」でした。

村人は誰も人柱になりたがらないし、また、誰がなったとしても、その家族が悲しむことになります。もくべえはクジ引きで決めることにして、自分が当たるように細工をしました。

埋められる前にもくべえが言い残したことは、自分が埋められた場所には、好きなコブシを植えてほしいということと、妻のおまつには、埋め終わったあとに知らせてほしいということでした。知らせを聞いたおまつは、もくべえのところに駆けつけ、土の中から、念仏を唱える



もくべえの声が聞こえなくなるまで、ずっとその場を離れませんでした。

もくべえの埋められたところが、今の「壱坂」だと言われているとされています。



講談「壱坂由来」より

第27号のでかけてみませんかの記事の写真注釈で誤りがありました。右下の写真は、正しくは人里での最高積雪深の模型です。

ご意見・ご感想・情報などをお寄せください。(次号は5月中旬発行予定)

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 新潟県土木部砂防課

TEL(直通): 025-280-5424 FAX: 025-285-9724

E-メール: ngt080090@pref.niigata.lg.jp

ホームページ: <http://www.pref.niigata.lg.jp/sabo/index.html>

